

# 子ども見守る 優しい眼差し

## 地域の安全安心を守る

勤務する印刷会社の関係で、24歳の頃に南島原市有家町から島原市へ。当時の印刷は活版印刷で、技術と経験が求められる現場の責任者として仕事に子育てと、忙しい日々を過ごしました。

数々の地域活動やボランティアなど、長年にわたり取り組んできた永門さん。活動の始まりは、地域の先輩から勧められ、38歳（昭和51年）

から始めた「島原市少年センター補導委員」でした。その後35年間、島原市少年センター補導委員協議会会長として退任するまで、街頭補導をはじめ、青少年の非行防止に熱心に取り組みました。「中学生を中心に、ときには保護者も一緒に相談に乗ることもありました。真剣に根気強く向き合い、荒れていた子どもが少しずつ変化していったときには、本当にうれしかった」と、当時を振り返りました。

また、「民生委員児童委員」の活動は54歳（平成4年）から始めました。高齢者や社会的に弱い立場の人々に寄り添い、「よろず相談会」や「高齢



「白山っ子ひろば」のメンバーで作った公民館の門松（H17）

## 子どもたちのために

平成14年、学校週5日制の導入に伴い、子どもたちの「居場所づくり」として始まった、白山公民館土曜開館事業「白山っ子ひろば」では、地元有志の一員として実行委員会の立ち上げから参加。10年間続いたこの活動は地域に定着し、多くの子どもが参加しました。時期を同じくして白山地区青少年健全育成協議会の会長も務め、子どもたちは体験活動を通じて楽しく過ごし、運営する地域の大人たちも一緒になって楽しんで



# 輝く島原人

THE SCENE Vol.55 島原に生きる



者見守り隊」活動にも取り組みました。平成22年、島原市民生委員児童委員協議会連合会の会長に就いてからは、行政の福祉施策を検討する会議などへの出席や、難しい判断を求められるような場面も増え、重い責任を感じながら約7年間、会長の職責を果たしました。

やっていたそうです。この頃に参加していた子どもたちは、既に成人していますが、近所などで声を掛けられることがあるそうで「あの頃の子どもたちが覚えていてくれて、こんなにうれしいことはない」と笑顔で話しました。

現在は、交通安全協会や老人クラブの活動をしながら、毎朝、通学路に立ち、登校時の見守り活動を続けています。「歳はとったが、のんびりし過ぎるのは好きじゃない。少しでもお役に立てることを続けていきたい」と語ってくれました。

## 「人生の達人」

ながとしげあき

永門 重明さん (84)



昭和13年、南島原市有家町で生まれ、育つ。地元の印刷会社に就職したのち24歳で島原市へ。在職中から島原市少年センター補導委員や民生委員児童委員、島原市スポーツ推進委員などの活動を始める。

定年退職後も、町内会長や白山地区青少年健全育成協議会会長などを歴任。安全安心なまちづくりや地域福祉の向上、青少年の健全育成などに尽力。

島原市表彰（H7以降7回）、長崎県民表彰（H16）、厚生労働大臣表彰（H29）など。新山二丁目在住。